



2026 年 7 月 13 日(月)

小栗キャップの News Letter

税理士法人STR 代表社員・税理士 小栗 悟

名古屋本部 〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-47-1 名古屋国際センタービル 17F

TEL : 052-526-8858 FAX : 052-526-8860

岐阜本部 〒500-8833 岐阜県岐阜市神田町 6-11-1 協和第二ビル 3・4 階

TEL : 058-264-8858 FAX : 058-264-8708

Email: info@str-tax.jp <http://www.str-tax.jp>

AI 導入が失敗する共通点

4 割の会社が「入れたのに使えない」

独立行政法人中小企業基盤整備機構の調査によると、AI を全社的に導入済みの企業でも「従業員による活用が進まない」と答えた割合が 40.4%にのぼっています。IT の同項目（約 28%）を大きく上回るこの数字は、「AI を契約すれば生産性が上がる」という期待が現実と乖離していることを示しています。

AI は IT と異なり、使い手のプロンプト（指示文）の質によって出力結果が大きく変わる特性を持ちます。社内でプロンプト教育や使い方研修を行わずにツールだけを導入しても、成果は生まれません。「ツールの契約」と「AI の活用」はまったく別物であることを、まず経営者自身がしっかりと理解しておく必要があります。

コストの罠は導入後に現れる

導入前から気をつけたい落とし穴が「ランニングコスト」です。AI 導入後の最大の運用課題として 44.0%の企業が「ランニングコストが高い」を挙げています。初期費用だけに目が向きがちですが、月次・年次の継続費用を事前に試算しておかないと「思ったよりお金がかかる」という事態になります。導入を決める前に、必ず 1 年間の総コストをシミュレーションしてください。

セキュリティ不安の正体

セキュリティへの不安も見逃せません。AI 導入にあたり懸念を持つ企業は 75.2%にのぼり、ハルシネーション（もったもらしい虚偽情報の生成）や機密情報の漏洩リスクへの不安が自由回答で多く挙げられました。対策として最低限、①入力情報の学習設定オフ、②社外秘・個人情報の入力禁止ルールの策定、③利用ルールの社内周知の 3 点を導入前に必ず整備してください。このような事前準備こそが、導入後の混乱を防ぐ最大の保険になります。

失敗を避けるための 3 つの準備

失敗を避けるためにまず取り組むべきことは、「どの業務に使うかを一つだけ決める」ことです。全社展開を焦らず、まず一つの業務で小さな成功体験をつくるのが定着への近道です。社内ガイドラインと簡単な使い方研修をセットで準備したうえで導入に踏み出しましょう。一步ずつ着実に積み上げることが、AI 活用を組織に根づかせる唯一の方法です。



何事も導入しただけでは使われませんし、準備と教育がなければ失敗します。